

対象プログラム/科目

名称	地域日本語対話教室 日本語教室in T県
----	-------------------------

社会的背景  
(促進要素・制約・条件など)

(どのような社会的ニーズがありますか。)

- 1) 外国人定住者(地域での生活者)の増加に伴う、地域での多文化共生の必要性。
- 2) わが県のような散在県は、外国人問題が潜在化しており、多文化共生の必要性自体認識されていない所が多いので、その必要性の啓発から始めねばならない。

\* 散在県: 外国人定住者が集住しておらず、県の各地域に散在している。県人口比1%程度の所が多い

使命

(あなたの組織・言語教育プログラムの使命(ミッション)は何ですか。)

・外国人定住者と日本人市民が、日本語を媒介として「対話活動」をすることにより、「異なり」を「豊かな資源」とし、「新しい多文化共生地域」の萌芽となる。

目標

(言語教育活動の目標は何ですか。)

- 1) 外国人の対話力、生活日本語の獲得・向上
- 2) 日本人の対話力、多文化コミュニケーション力の獲得・向上
- 3) 外国人がエンパワメントされ、地域社会に参加できる力をつける

実績

(これまでにどのような実績がありますか。)

- ・2008年より継続して実施。
- ・現在(2016)まで、外国人参加者68名、日本人参加者53名。
- ・多文化コミュニケーション力を生かして教室外でも外国人支援の役割をする人が増えた(実例: 務めている企業や自治会で。)
- ・支援者に教室内外で支援を受けて、資格試験(介護福祉士)に合格4名。その他の外国人参加者も、転職や就業上の悩みを対話活動で解決することが多い(ミーティング記録から)



対象プログラム/科目

名称	地域日本語対話教室 in T県
----	--------------------

【構成要素】

ヒト(関係者)

◎教育・支援スタッフ

**種類・役割:** どのような教員/支援担当者(コーディネーターなど)がいますか、それぞれの役割分担はどのような感じですか。

①: 日本語コーディネーター(有償)(対話活動の企画・実施、質の保持、ボランティアリーダーの育成、新人ボランティアの養成)  
\*ボランティアリーダーが協力する。  
②: 支援者(日本人・外国人): 対話活動を「わかり合う日本語ややさしい日本語」で行い、外国人・日本人が共に学ぶ場作り、日本社会の既知知識を提供する等、日本社会に問題提起する、母国の既知知識を提供する等。

**活動の指針となる考え・方法:** どのようなことをスタッフで共有していますか。

・日本語コーディネーターは(①)は、支援者(②)とボランティアリーダー(③)と使命・目標を共有、ただし日本人外国人参加者(⑤)とはボランティア観や支援観等の違いで、到達目標などズレている場合がある。  
・①は、使命のつくり、さらに以下を②、③と共有。  
1) 日本人市民が幅広く参加できる活動にするため、専門知識等を要する「日本語教授力」を日本人に求めない。ただし、「外国人状況、ボランティアとは、支援とは、対話とは」等の基礎養育は、ボランティアさんには必ず学んでもらいたい(ボランティア養成講座と、OJTで)。2) 外国人・日本人を非対等の立場に「がちな」(教育・生徒関係)に陥らない活動を、心がける。3) 外国人がエンパワーされ、いずれは支援する側になるように、働きかけを行う。

◎運営スタッフ

**種類・役割:** どのような運営担当者(事務担当など)がいますか、それぞれの役割分担はどのような感じですか。

③: ボランティアリーダー: 教室運営(会場確保、会計、広報、他機関との連携など)  
\*日本語コーディネーターも助言・協力  
④: 県の国際センターの担当者1名。(ただし、他業務との兼務): コーディネーター派遣制度実施、ボランティア養成講座の開催

**運営スタッフのニーズ:** プログラムや学習者に対してどのようなことを期待していますか。

・ボランティアリーダー(③)のニーズ:  
1) 県など行政機関が、予算や人材面でもっと協力してほしい。  
2) 現在は自主運営組織なので、他のボランティア支援者が、積極的に教室の役割を分担してほしい。  
・県国際センター(④)のニーズ:  
1) 予算の関係上、できるだけ自主独立でやってほしい。  
2) 学習者・支援者人数が多いこと、彼らの満足度が高いこと。ただし、満足度の指標は不明。

◎学習者

**種類・特徴:** どのような学習者(正課生、聴講生、受講者など)がいますか、それぞれのプロフィール(背景・特性等の特徴)はどのようなものですか。

⑤: 日本人参加者: 日本人市民なら原則誰でも受け入れている。【会社員、主婦、定年者など】ただし地域日本語教育の基礎養育「外国人状況、ボランティアとは、支援とは、対話とは」等を、ボランティア養成講座で学んでいることが望ましい。最低OJTでは学んでもらう。  
⑥: 外国人参加者: 地域で生活する外国人で、ごく簡単な日常会話ができる人なら誰でも【配偶者、日系人労働者、技能研修生など。国はアジアを中心にさまざま。】

**学習者のニーズ:** プログラムや日本語学習等に対してどのようなニーズがありますか。

⑤: 日本人参加者: ・自分もいろいろなことを知りたい。困っている人の役に立ちたい。日本語を教えたい人もいる。  
⑥: 外国人参加者: ・周囲の人とのコミュニケーション・生活上の問題相談  
・「キャリアアップ」「子供の学校教育」など、社会に積極的に参加したい。・日本語の構造を理解したい。

◎その他: 上記以外でプログラムの運営に際し考慮すべき立場の関係者・関係組織

(例えば、学校経営者、組織長、行政の担当者、予算配分者など)

**種類・関わり方:** どのような立場の人や機関がありますか、それぞれどのように関わっていますか。

【順不同】⑨: 教室がある自治体の国際交流協会  
⑩: 教室がある自治体の該当部署(市の国際課等)  
⑪: 社会福祉協議会: 外国人状況を福祉の観点から捉えている

**各関係者のニーズ:** プログラムに対してどのようなニーズがありますか。

⑨、⑩: ・外国人対策や多文化共生プランを実施している関係から、地域日本語教室には、活発に活動してほしい。  
・目標に関しては担当者によるが、大まかに理解している。異動が多いのと、generalistが多いので、なかなか地域日本語教育の深い理解には至らない場合が多い。  
⑪: 外国人への福祉、日本人のボランティア活動推進。

情報(知識・組)

	共有範囲: 次の種類の情報をどのような人々と共有していますか。	共有方法: 次の種類の情報をどのような方法で共有していますか。
学習者に関する情報	・教室内のヒト(①②③⑤) ・必要に応じて県・市の担当者(④)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
カリキュラム・成績に関する情報	・教室内のヒト(①②③⑤) ・必要に応じて県・市の担当者(④)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
教育・活動方法に関する情報	・教室内のヒト(①②③⑤) ・必要に応じて県・市の担当者(④)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
設備・施設等に関する情報	・教室内のヒト(①②③⑤) ・必要に応じて県・市の担当者(④)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
プログラム評価(方法・結果等)に関する情報	・教室内のヒト(①と③)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
関係者・組織に関する情報	・教室内のヒト(①②③) ・必要に応じて県・市の担当者(④)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
予算に関する情報	・教室内のヒト(①②③⑤) ・必要に応じて県・市の担当者(④)	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼
その他の情報	?	口頭、電話、メールなどでの連絡/依頼

モノ(施設・設備)

学習者用: どのような施設(ラウンジ、L1、図書館、自習室など)設備(コンピュータ、給湯、教科書/教材、など)がありますか。	教師・学習支援者用: どのような施設(教員室、教材用図書室、など)設備(コンピュータ、給湯、教科書/教材、など)がありますか。
・公民館の部屋(申し込みをして、活動の時だけ借りる) ・わずかな活動集、文具、番書など	・公民館の部屋(申し込みをして、活動の時だけ借りる) ・わずかな活動集、文具、番書など ・日本語コーディネーター所属の学校(ミーティングスペース、教材書庫)

カネ(予算・資金)

十分な予算・資金が確保されていますか。(十分でない場合は、何のための予算が必要ですか。)

全く足りない。  
1) コーディネーター派遣費用(本来は専門家として常駐すべきだが、現段階では、月1回程度の派遣のみ。他の回はボランティアリーダーがコーディネーターと連絡してその役割を担っている。)  
2) 主な財源は、外国人・日本人共に支払う会費1000円

外部の関連団体・プログラム

**種類・関係:** どのような団体やプログラムなどがありますか、それぞれどのように関連していますか。

⑭: 学校: 外国人参加者の子弟が通っている所と子弟のごとで、地域の小・中・高校、大学からは「異文化理解」の出張授業など  
⑮: 企業: 外国人参加者が勤務している所へは、情報交換等。  
⑯: 地域の自治会: 外国人参加者と自治会の橋渡しをする等



対象プログラム/科目

名称 地域日本語対話教室  
in T県

【カリキュラム・シラバス等(基本計画)】

【活動】

コース/カテゴリー	<p>どのようなコース(科目)、活動の単位となるカテゴリーがありますか。</p> <p>1)対話活動クラス:外国人定住者と日本人市民の協働で対話活動をする場 2)入門クラス:原則、地域日本語教育専門家が学校型で実施する。支援者にTAを依頼することもある。 3)保育:対話活動クラス参加の親のために子弟保育が目的だが、子どもや親に就学前教育もする。</p>
レベル	<p>各コースやカテゴリーは、どんな日本語レベルを想定しています</p> <p>1)対話活動:入門レベルの日本語力がある~上限なし(含む・超級) 2)入門:ゼロ初級 3)保育</p>
サイズ(人数)	<p>各コースで想定する参加学習者は何人ぐらいですか。</p> <p>1)対話活動:日本人参加者1に外国人参加者1で、15ペア位が上限。 2)入門:十数名が上限 3)保育:</p>
期間	<p>各コースはどのくらいの期間実施されますか。</p> <p>1年を1タームとして通年で実施。益暮れの期間は、日本人の習慣にのっとって休む。</p>
授業(活動)の①単位時間と②頻度	<p>各コースでは、 ①どのくらい長さの授業(活動)を、 ②どのくらいの頻度で行ないますか。</p> <p>①1回90分(前に15分、後ろに45分程度ミーティングあり。)日本語コーディネーターと日本人参加者が中心) ②月2~3回</p>
内容(技能・ジャンル・活動、など)	<p>各コースでは、どのような内容を目的として授業(活動)を行いますか。</p> <p>1)対話活動クラス ・方法:支援者と外国人の対話を基本とする。外国人を含む支援者が「やさしい日本語」で対話をつなぎ、話を広げたり、深めたりする。識字、体験活動もある。 ・内容・ねらい:話題は、生活・労働・教育・防災など実際の生活、社会が抱える課題など。取り上げた話題ごとにねらいを決める。</p>
その他(特記事項)	<p>2)子どもクラス:工作や体を使った遊び、 各コースについて、上記の他に何か特記する事項がありますか。</p> <p>1)対話活動の他に、実際に社会に参加する疑似体験活動をする。外国人と共に地域でのボランティア活動に参加したりする。</p> <p>2)互いのクラスには有機的なつながりがある。入門クラスを卒業し、活動クラスにあがる。活動クラスの先輩外国人が入門クラスに通訳として入る、大人のクラスに来ている親のことも子どもクラス・保育で預かり、相談に応じるなど、各クラスが単独で存在しているのではなく、互いに人の行き来があり、課題の共有がある。</p>

**フィードバック・見直し**

評価・振り返りの結果、どのような改善を行いますか。

結果を踏まえて、考えられる改善策を振り返りのミーティング等で皆に提言。次年度の活動計画や新人養成(ボランティア養成講座内容など)の参考にする。

**計画・準備**

【シラバス・カリキュラム等(基本計画)】を実施する前に、どのような準備・計画を行っていますか。

・年度末に、「今必要な事・困っている事」などのテーマで対話活動をして、学習者のニーズを中心に、1年のテーマ設定をする。  
・毎回の活動の1か月ほど前に、教室の現在の状態(メンバーシップや教室の成熟度など)を考慮して、テーマの再考をする。(ボランティアリーダーとアドバイザー中心に。)

**評価・振り返り**

どのような評価・振り返りのためにどのような活動を行っていますか。

・毎活動の終了後に事後ミーティングを行う。  
・不定期アンケート(外国人・日本人に)  
・2~3週間に1度、アドバイザーとボランティアリーダーがミーティングを行う。  
・半年に1度、ボランティア(支援者)ミーティング  
・3か月に1度、アドバイジング報告書を県国際交流センターへ提出

**実施**

【カリキュラム・シラバス等(基本計画)】の実施

**モニター**

【シラバス・カリキュラム等(基本計画)】が計画通りに行われているかを、どのようにチェックしていますか。

・シラバス(基本計画)通り行われていることを、余り重視はせず、その時の教室の成熟度や出来た問題への対応を重視している。その意味では、後行シラバスのためである。活動が、現在の学習者や教室の状況に有益かを「評価・振り返り」で確認する。